

令和6年度前期

電気・機械系国家資格

取得者報告会

- 第一種電気工事士 1名
- 第二種電気工事士 21名
- 技能検定 3級
 - ・機械保全電気系保全 3名
 - ・フライス盤作業 3名
 - ・機械検査 7名

2024年(令和6年)10月4日 金曜日

南信州新聞

電気・機械系資格に合格

OIDE 校長に喜びを報告

飯田OIDE長姫
高校で9月27日、資格合格報告会が開かれた。機械系・電気系の各種国家資格・検定に合格した生徒が宮澤直哉校長に喜びを語った。



校内で開かれた資格合格報告会

機械工学科、電子工学科の生徒が7月の資格試験に臨み、第一種電気工事士に1人、第二種電気工事士に21人、機械保全電気系保全作業3級に3人、フライス盤作業3級に3人、機械検査3級に7人が合格した。電子機械工学科2年の水島透愛さん(16)はフライス盤作業3級と機械検査3級の2つに合格した。「先生や講師の方

にお世話になり、合格できた」と語り、「さらに上の資格を取得して、進路に生かしたい」と話した。電気電子工学科3年の今牧勇雅さん(18)は「2カ月の練習期間でみるみる作業ができるようになって自信になった。先生には放課後にも指導していただいた。合格できてホッとしている」と語り、胸をなで下ろしていた。宮澤校長は「日々の努力、研さんと指導のたまもの。社会人や学生になっても技を磨いていってほしい」とエールを送った。

地元企業から

ボールを寄贈していただきました

2024年(令和6年)10月9日 水曜日

南信州新聞

南信州のラグビー発展に

イーアーツ 飯田、○長高にボール寄贈

飯田市北方のイー

アーツ電気(木下敦夫社長)と高森町出

原の飯田建設(三石

芳久社長)が飯田高

校と飯田OIDE長

姫高校のラグビー部

にボールを寄贈し

た。3日に両社の社

長が両校を訪れて部

員に手渡した。

イーアーツ電気の

木下社長が飯田工業

高校(現飯田OIDE

長姫高校)ラグビ

ー部出身だったこと

から初めて企画。飯

田建設の三石社長も

賛同して両校に7個

ずつ贈った。

寄贈式で木下社長

は「昔は岡谷工業が

強かったが、今は南

信州の学校が強くな

ってきてうれしい。

南信州のラグビーの

発展に少しでも力に

なれたら」と語り、

三石社長は「つらい

練習を乗り越えた経

験は社会人になって

必ず役に立つので頑

張ってほしい」とエ

ールを送った。

飯田高3年でキャ

プテンの北原慎一朗

さん(18)は「寄贈

を受けたボールは)

ポロポロになるまで

使いたい、OIDE

長姫高3年の後藤慶

伍さん(17)は「花

園に出場できるように

練習に励みたい」と

感謝を伝えた。

全国高校ラグビー

大会(花園)の県予

選は今月開幕する。

OIDE長姫は初戦

で岡谷工業と、シー

ドの飯田はOIDE

長姫と岡谷工業の勝

者と対戦する。



飯田高にボールを贈る両社の社長

2024年(令和6年)10月13日 日曜日

南信州新聞

羽場「ども未来園児と水引で交流

水引で園児と交流

OIDE 長姫高生 羽場文化祭では「水」PR

ども未来園を訪れ、園児と水引体験で交流した。

生徒たちは地域の課題解決に取り組む地域人教育の一環で、若者が戻ってくるまちづくりに向け、飯田の魅力の再発見に取り組んでいる。その中で飯田には多くの文化があり、文化の原点には「水」が共通していることを知り、飯田の文化や水の魅力を広める活動をしている。

この日は年長園児

飯田OIDE長姫
高校商業科3年の生徒7人が11日、飯田市白山通りの羽場こ

10人が参加し、水引飾りや小物を入れた小瓶のアクセサリー作りに挑戦。ビーズ



水引体験で園児と触れ合う飯田OIDE長姫高校の生徒たち

や花形のスポンジなど多様な小物を選びながら、思い思いに小瓶に詰め込んでいった。小物の中には生徒が作った水引の

梅結びもあり、園児たちも棒に水引を巻くなど水引に触れた。園児と生徒は終始笑顔で触れ合いを楽

しみ、最後は生徒が作った水引の花を園児にプレゼントした。同校の松下芽維さん(18)は「園児たちが喜んでくれるか不安もあったが、楽しんでもらえてうれしい。水引を身近に感じてくれたら」と話していた。

生徒たちは11月2日の同市羽場地区の文化祭にも参加し、飯田の水をPRするブースを設ける。水引体験のほか、地元の名水「猿庫の泉」で入れたコーヒーを提供。和菓子屋の船橋屋も協力し、猿庫の泉を使ったくずもちバーを販売する。

祝 最優秀賞 2C 森山月光さん 全国大会出場

2024年(令和6年)10月19日 土曜日

南信州新聞

課題解決へ活用提案

ロボットアイデア甲子園 初の南信州大会で発表会

高校生らが産業用ロボット活用のアイデアを競う「ロボットアイデア甲子園」の南信州大会の発表会が12日、飯田市座光寺のエス・バードで開かれた。飯田下

伊那地域の高校や専門学校に通う生徒6人がエントリーし、ロボット活用の新しいアイデアを発表。飯田OIDE長姫高校電気電子科2年の森山月光さん(17)が最優秀賞を受賞し、12月の全国大会に出場する。

発表会に先立ち、7月に同市川路の三和ロボティクスで見学会を実施。生徒6人は実機操作を体験し、見学会でアイデアレポートを作成した。この日生徒たちはレポートに基づいて考えた具体的なアイデアを発表。社会問題の解決につながるアイデアを考案し、ロボットのデザインも見せながら、経済効果から販売価格まで説明した。

最優秀を受賞した森山さんは果樹農家の人口減少対策になり、地域に貢献できるとして「果樹収穫ロボット」を考案。夜間でも収穫できるようカメラを搭載し、不審な動きに警告音を鳴らすことで、果実の盗難や鳥獣被害を防止できるとした。

「驚いている」と感想を述べ、全国大会に向け「戦場に向かう兵士のような気持ちだが、農家を助きたいという思いを伝えられたら」と語った。実行委員長を務めた三和ロボティクスの沢宏宣社長は「発表はどれも素晴らしい、生徒たちは大会を通じて成長したと思う。企業や地域との交流の場にもなけたら」と話した。



ロボットアイデア甲子園南信州大会に出場した生徒の皆さん

栄和測量様(地元OB企業)より

トランシーバーを寄贈していただきました

2024年(令和6年)10月24日 木曜日

南信州新聞

地元就職率向上に貢献を

八十二銀行
私募債活用 栄和測量が〇長高に寄贈

飯田市鼎中平の栄和測量(矢澤久実社長)は18日、八十二銀行の「地方創生・SDGs応援私募債」を活用し、飯田OIDE長姫高校に最新式のトランシーバー5機を寄贈した。同私募債は、八十二銀行が発行企業から受け取る引き受け手数料の一部を割り引き、発行企業が割り引き分で指定する企業や教育文化施設に学校用品などを寄贈する商品。

栄和測量が同私募債を活用するのは3回目、前回も同校に寄贈した。同校は矢澤社長の母校で、県測量設計業協会南信支部会員として課外授業に協力。毎年、同校生徒のインターシップを受け入れている。寄贈式は同校で開き、矢澤社長と宮澤直哉校長、八十二銀行鼎支店の岩嶋直樹支店長らが出席した。矢澤社長は「生徒の授業の助けにな

れば。自社のPRとともに地元就職率の向上に貢献したい」と話し、宮澤校長は「地元産業界の協力のおかげで生徒が授

業で本物に触れられる。機材は不足しがちで継続的な寄贈はありがたい」と感謝していた。



飯田OIDE長姫高校で開いた贈呈式

建設フェスタで公演

2024年(令和6年)10月24日 木曜日

南信州新聞

建設・製造業に興味を

綿半ソリューションズ「建設フェスタ」初開催

綿半グループで建設・製造事業を担う綿半ソリューションズは19日、「建設フェ



会社概要の説明を受ける工場見学の参加者

スタ」を同社飯田工場（高森町下市田）で開いた。家族連れを中心に多くの来場者があり、楽しみな

から建設業・製造業の魅力に迫った。建設・製造の仕事に興味を持ってもらい、綿半ファンを増やそうと初開催。3月には関係者家族向けにプレイベントを開いた。神稲建設（本店・飯田市主税町）が協賛、綿半グループ各社が協力した。

工場見学は4回開き、各回定員いっぱい30人が参加。参加者は、大型物件の資材となる鉄骨を加工する工場内を見て回った。工場見学はインターシップ以外では実施していないため、一般向けの公開は初めてとなった。

高所作業車やタイヤローラーなど大型作業車の試乗体験、飯田OIDE長姫高校による「高校戦隊テックレンジャー」ショーなど、一日を通して楽しめる企画で盛りだくさんだった。

松澤宏典取締役（47）は関係者への感謝を述べ「目をキラキラさせて見てくれる子どもたち姿があり、うれしく思う。継続的に開催できれば」と話していた。

建築学科生徒

「瓦」屋根の魅力を学ぶ

伝統のプロの技術を直接学習

2024年(令和6年)10月25日 金曜日

南信州新聞

伝統「瓦」の魅力伝える OIDE長姫高生に講義

瓦事業組合

県瓦事業組合南信支部は21日、飯田OIDE長姫高校の建築学科の生徒を対象に、瓦の歴史や施工方法などを伝える勉強会を開いた。伝統的な建築技術としての瓦屋根をより深く知ってもらおうと、10年ほど前から続けている。当初

は同支部青年部が主催していたが、今年から同支部が実施している。支部会員5人が学校を訪れ、瓦の歴史や種類、特徴・性質、形状などを紹介。場所を移して開いた実技では、生徒たちが実際に屋根と瓦の間に漆喰を塗り、仕上げていく工程を学んだ。地震や

台風対策の一環として整備されたガイドラインに基づき、鉄筋やくぎなどで固定し強度を上げる最新の施工技術も体験した。施工作業を体験した今村環希さん(16)は「ネジなども使って固定していることが分かった。一枚一枚を屋根に仕上げていく作業は大



瓦屋根の施工体験をする生徒たち

変だと感じた」と語り、大邊寿美香さん(同)は「思っていた以上に工程が多くて驚いた。将来のための勉強になった」と話していた。同組合南信支部長の松澤克友さん(56)は「光伸製瓦、喬木村は日本に伝来して1400年。気候や風土に適応しながら今の姿になった。経済性、断熱性、耐火性、耐寒性、耐水性、防音性に優れているのが瓦。良さや魅力を知ってもらい、一人でも多くの担い手が生まれてくれたらうれしい」と話していた。瓦施工を巡っては、阪神淡路大震災後の1998年に、瓦屋根の耐震・耐風性能を満たすための瓦屋根施工方法「施工ガイドライン」が定められた。

掲載記事提供: (株)南信州新聞社

川路ハロウィーンパレード

本校生協力

2024年(令和6年)10月30日 水曜日

南 信 州 新 聞

菓子配る側も楽しむ

四半世紀続くハロウィーン

飯田下伊那地域では特に古くから続いているハロウィーンパレードが26日、飯田市川路であった。仮装をして地区内外から集まった子ども141人がお菓子をもらいながら3区周りを歩き、仮装をして出迎えた住民と交流した。

主催者は地区内在の保育士、鈴木志

野さん(57)。飯伊ではまだハロウィーンが一般的ではなかった1999年に、当時住んでいた座光寺のアパート周辺で始め、2016年から自宅を建てた川路で続けている。26回目の今年も稲橋ホント商会の裏手から、鈴木さん宅までの約800メートルの約800軒で行進。茶色いカラー舗

装の県道沿いには、住民や飯田OIDE長姫高校の生徒が家の前で待ち受け、「トリック・オア・トリート」(お菓子をくれないといたずらしちゃうよ)と話す子どもにも用意した菓子を手渡した。

川路では「家族の触れ合いにつなげた」とい(鈴木さん)という考えから手作り感を大切にしており、家庭で手縫いした衣装を着てくる子どもの姿も。オレンジのカボチャはハロウィーン用に栽培している。

沿道の家庭も回数を重ねる中で「自分たちも楽しもう」という機運が徐々に高まり、日用品をアレンジして家の前を飾り付けたり、自分たちも仮装をするなど、長く続いているイベ



ゴール地点の装飾に見入る子どもたち(川路で)

掲載記事提供: (株)南信州新聞社